

京都妖怪観光

堀田 穰

京都を学生たちと歩く

大学に来ている学生たちの半分くらいは、関西以外の出身で、下宿暮らしであり、また関西出身でも、京都以外の者たちは、遠足で京都に来たことがあるくらいで、ほとんどしげしげと京都を歩きまわったことはないのが普通である。まして今回のような「おばけ」がテーマで京都を歩くというようなことは、初めてであろう。

ガイドブックに使うのは、小松和彦著『京都魔界案内』（光文社知恵の森文庫、二〇〇二）。日本の妖怪文化研究の第一人者であり、今回の特集の執筆者、香川、真鍋両氏の恩師でもある小松先生は

「京都には、京都の住民に共有されるような『異界』や『魔界』がたくさん作り出され、伝承さ

れてきたのだが、合理的な思考の発達や科学技術の浸透によって、そうした異界や魔界も人間によって征服されて日常生活の領域に組み込まれ、そうした領域があつたという歴史さえも忘れ去られつつあつた。

しかし、異界を作り出す想像力が失われたわけではない。いや、むしろ現代人は異界を意識すること、心に安らぎを見出すことができることに、再び気づき始めているように思われる。

このように考えると、魔界探しは、じつは京都の人びとの心の歴史を探ることだと思われる。くる。」

と、まえがきに書いている。

たしかに学生たちを見ていると、その興味が神話とか、占いだとか、オカルト、妖怪など、なにかしら現代科学的な世界観からはずれたところに向い

ているように思える。それを大人は反時代的な態度と見なして、迷信に惑わされているとだけ考へがちだ。けれども、特に人文科学を学ぼうとしている学生にとって、これは歴史学や民俗学をはじめとする諸学問へのよい導入にならないだろうか。京都という千二百年もの長い歴史をもち、京都以外の関西人にもなかなかよく見通せない都市は、そのための絶好のフィールドである。このところやたらと自動車が増えて、あまり快適ではないのだが、奈良などに比べて京都というのは距離的にはそれほど拡散していない、歩きまわるにはちょうど良い都市でもある。さて『京都魔界案内』を手に、いざ出発しよう。

暑い京都の歩き方

決行したのは真夏、八月七日の火曜日、ご存知のように今年の夏は暑かった。まして京都は暑いのと寒いのに定評がある。アスファルト舗装の街路を歩くにはかなりつらい。なるべく地下鉄を利用し、歩くのはお寺や神社の境内をという方針でコースを決めた。

今回のコースを示してみよう。

集合 JR二条駅（嵯峨野線）

午後一時

駅前に平安京遺構の案内板がある。

← 徒歩

朱雀門跡の石碑

← 徒歩

神泉苑

← 徒歩

地下鉄二条城駅

駅構内に神泉苑出土品

←

烏丸御池で烏丸線に乗換

地下鉄北山駅

← 徒歩 八〇〇 m

深泥池 北山駅に戻る

←

地下鉄鞍馬口下車

上御霊神社

← 徒歩 六〇〇 m

相国寺 宗旦稲荷神社

← 徒歩 六〇〇 m

白峯神社

← 徒歩

一条戻り橋

← 徒歩

清明神社

← 徒歩

地下鉄今出川駅

午後四時半くらい

なるべくそろそろ行ったつもり

だったが、かなり暑かったし、

それぞれの間はそれほど遠くは

ないが、ちりもつもればで、か

なり歩いたのではないだろうか。

朱雀門と平安京

まず朱雀門跡に行ったのは、ここが大内裏であり、二条城辺りまでが平安京の核心であったという空間意識を持ったためだ。そして朱雀門は『長谷雄草紙』で紀長谷雄が鬼と双六をして、鬼が死体を集めて創った絶世の美女を手に入れる舞台でもある。



神泉苑も規模こそ縮小されているが、古代から存在した放生

池を中心にした庭園であり、大内裏との関係から、ちょうど今の地下鉄二条城駅の北あたりが「あははの辻」と呼ばれた、百鬼夜行出現の名所だったはずである。神泉苑の出土品が地下鉄二条城駅に展示されており、暑い京都で神泉苑と次の深泥池は水辺の景色で救われた。考えてみれば、神泉苑と深泥池はほとんど南北一直線に位置していて、地下水脈でつながりもあるのではないだろうか？

大蛇と鬼と幽霊スポットの深泥池

地下鉄北山駅から八百メートル北に歩くと、今では生物環境面から注目される深泥池（みどろがいけ）がある。『小栗判官』ではここは大蛇が住み、たびたび美女に化けていた所である。

さらにこの北の貴船の奥の谷には鬼が棲み、穴を通じて出口が深泥池にあったようで、鬼が出没し、豆をその穴にまいたという豆塚（魔滅塚）がかつてあったそう。



周囲一・五キロの小さい池だが、その三分の一ほどを浮島が占めている。深い泥という名前のとおり、いまや天然記念物だから誰も入ったりしないが、泳いだりしようものなら足を取られて沈んでしまい、二度と浮かんでこないと思われる。

平安の頃から気味悪がられていたらしいが、なんといってもタクシーをつかまえて消え失せる幽霊の本場がここだったようだ。現在は氷河時代以来の動植物が生息するというので、監視員も駐在し、貴重な自然遺産としてイメージは変わろうとしているのだ。

御霊信仰と上御霊神社

地下鉄北山駅まで戻り、鞍馬口まで地下鉄で。駅と車内の冷房がありがたい。さて、平安京を造ったのは桓武天皇だが、上御霊神社（かみごりようじんじや）には弟の早良親王（さわらしんのう）が祀られている。



桓武天皇は皇位継承権をめぐ
つて早良親王を結果的に謀殺す
るのだが、恨みを吞んで死んだ
ものは怨霊となって祟った。こ
れを神と祀り鎮めるのが御霊信
仰であり、上御霊神社などは菅
原道真の北野天満宮と並んで、
まさにその代表選手みたいなど
ころなのだ。早良親王は崇道天
皇という尊号を追贈されここに
神としてまつられている。怨霊
を鎮める儀式を御霊会（ごりよ
うえ）というのだが、この最初
のものは神泉苑で行なわれたと

いう記録があり、今回のコース
選定なかなかよくできていると
自画自賛。

宗旦稲荷から白峯神社へ



上御霊神社から南へ向かうと
程なく相国寺（しょうこくじ）
の境内に入る。広い境内で承天
閣美術館などもあるのだが、夏
場は残念ながらお休みだ。美術
館の少し南側に小さな宗旦稲荷
が鎮座する。千利休の孫、千宗
旦の名前に由来するのは、どう

もこの狐がよく宗旦に化けたということらしい。

ここから南へ出ると右手は同志社大学。キャンパスを通り抜けると地下鉄今出川駅である。その角を西に、今出川通を歩く。そろそろばてて来ているし、大通りの歩道歩きはつらいのだが、六百メートルほどで白峯神社に着く。



さきほどの上御霊神社が崇徳天皇なら、こちらは崇徳上皇の神社である。崇るという字を尊

号に使われるのは、やっぱり崇ったからで、保元の乱（ほうげんのらん）の首謀者。『保元物語』では配流の地讃岐で生きながら天狗のような姿になって大魔縁（学問や修行を妨げる悪神）として天皇家を呪い続けると宣言している。明治天皇が讃岐から勧請して来たのだが、今ではサッカーの神様でもある。

一条戻り橋と晴明神社



白峯神社からすぐに堀川通り

で、南に向かえば一条戻り橋である。陰陽師ブームでここらあたりはあまり解説しなくてもよいだろう。百鬼夜行でいえば、あははの辻とこの一条戻り橋が一番良く出会える場所である。少し前までこの堀川通りから晴明神社は見えなかったのだが、ブームで神社の前も整備されて、通りからも見えるようになっていた。仕方がないので寄ることにした。安倍晴明の桔梗紋、五芒星のＴシャツなども売っている。すれ違った親子連れのお父さんが、小学生の娘に「陰陽師はどこにおるねん？」と聞いて、娘が困った顔をしていたのがおもしろかった。それでも、神泉苑の中にある歳徳神の社は、毎年変わる恵方（吉をもたらす方角）に伴って動き、それが陰陽道によって決められているなんてことを知っていて

じつさいにそこを訪れていると、もう少し、歴史や民俗の中の魍魎魍魎の類も、身近なものに思えてくることだろう。映画「陰陽師」の背景に平安神宮がフルに活用されていたが、あれが明治の博覧会で平安京を模して造られたパビリオンであることを知っていればなるほどと納得するに違いない。妖怪から京都を見るとは、おさまりかえって文化財の顔しか見せないこの都市を、もう一度人間くさい、怨念や哄笑や悲嘆の中に戻すことなのだ。（二〇〇七年八月七日）

子どもの文化二〇〇七年十月号
特集「お化けの世界」